

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 野口倫子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医学科に所属し、専門科目である臨床繁殖学および養豚生産に関わる学問を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、獣医学科学生を対象とした臨床繁殖学関連および養豚関連科目の担当、研究室生の研究指導業務である。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	153
総合獣医学	獣医学科	必修	6	132
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	4
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	1	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生には、自ら疑問を感じて、それを解決するために積極的に行動できる人間になってもらいたい。獣医師として世の中に出た際には、明確な答えがあるような状況や、待っていれば答えが出てくる環境は極めて稀であり、それぞれが責任を持って難しい決断をして、問題解決のために物事を前に進めていく立場になる。そのため、受動的な教育を受ける機会の多い学生時代から、一つの課題についてまずは自ら考えるという習慣をつけ、間違いを恐れず発言・行動し、教員と議論することを反復させる能動的な教育を提供することは、学生自身の現在の知識やスキルの過不足を把握させた上で、問題解決のために足りない能力を自ら学ぶ必要性に気づかせることにつながる。

また、多様な働き方が選択できる世の中において、公私ともに充実した日常を送るためには、自身を律する力が重要な鍵となる。学生が、将来ワークライフバランスを重視した働き方を選択できる人間となるために、問題解決をした際の達成感や充実感を通じた獣医学的能力の向上意欲の促進だけではなく、時間管理能力や周囲との協調性を身に着けるような教育を提供していきたい。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

前述の教育理念を達成するために、①「自ら学習し、考えるという思考を身につける」②「事前に準備し、行動し、解決するという実行力を身につける」③「時間管理方法を身につける」という方針で教育を行っている。

#### ①「自ら学習し、考えるという思考を身につける」

学部生教育では、講義や実習では基本的に教科書は使用せず、必要な箇所については自身で教科書等を用いて加筆するようにしている。

研究室生教育では、学生自身が担当する研究についての試験計画書作成に多くの時間を割いている。特に動物生体を用いる研究については、科学的根拠をしっかりと学んだ上で、研究の必要性について理解をさせている。

#### ②「事前に準備し、行動し、解決するという実行力を身につける」

学部生教育では、講義や実習資料を遅くとも1週間前までに確認できるように準備している。講義内容には復習すべき箇所を盛り込んだ課題を入れ、「予習」「受講」「復習」を行ってから小テストや課題を受けるという方式を採用している。実習では、基本的には学生が自身で作業し、考える時間を多く設けているが、教員は学生から質問がしやすいように巡回をしたり、教員から話しかけて問題解決をサポートしている。

研究室生教育では、学生自身が主体性を持って担当研究について管理を行っている。また、トラブルも含めた進捗状況に対し、現状がわかる資料を作成の上相談に来る形式を徹底している。

#### ③「時間管理方法を身につける」

学部生教育では、講義や実習の出欠管理は事前に十分説明の上、厳格に対応している。特に開始時間については厳守している。

研究室生教育では、個人が担当する研究について、学生自身が研究活動の全ての時間設定を行っている。緊急的な相談については、教員に事前アポイントを取った上で随時打ち合わせを行うことを徹底している。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

産業動物臨床実習において、ロールプレイ方式を導入した。教員がオーナー役を行い、学生が獣医師役を演じながら、オーナーとの会話を通じて稟告を取り、情報を引き出し、その情報を基に動物の検査・診断を行った。この方式を取り入れることにより、獣医師としての立ち居振る舞いから始まり、情報や検査結果を系統だてて組み立てて診断まで結びつけるという実践的な実習を行うことができた。

### (2) ICTの教育活用

有

配布資料はPDF化して講義・実習の1週間前までに学生が確認できるよう配慮した。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

対面実習では、短時間で学生の学習効果があるように班編成や実習内容を工夫した。さらに、実習ではロールプレイ方式を取り入れることで、これまでの獣医学的知識を系統だてて考えるような構成にすることで、学生の学修意欲や効果が非常に高まった。また、学生の理解度を把握するため、アンケート調査を行い、理解が難しいと学生に判断されていた箇所については、説明方法や配布資料等の修正を行った。

### (2) 学生の理解度の把握

A

学生の理解度を把握するため、アンケート調査を行っている。また、対面実習時には少人数で教員と質疑応答を行うことで、理解度の把握をしている。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

学生の自学学習を促すために、学生とのやり取りの中で復習箇所のポイントを明示するという工夫をした。

#### (4) 学生とのコミュニケーション

A

学生からの質問は、講義・実習中に質問しやすい環境を作るように配慮している。また、遠隔講義についての質問は、複数の方法で受け付けを可能とし、早急に対応するようにした。対面実習では、学生の状況を丁寧に観察し、必要に応じて教員側から声がけをするようにした。

#### (5) 双方向授業への工夫

B

講義・実習双方において、複数の方法で学生からの意見を言える環境を整備している。実習については、対面式の実習時には学生と教員が直接話をする機会を多く設け、学生からの質問がしやすい環境作りに配慮している。しかし、講義科目においては録画や配信時にトラブルが派生することもまだ多いため、教員自身のトレーニングが必要だと感じている。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

担当講義や実習の授業評価は、内容に問題はないと判断したため、基本内容は変更せずに適宜小さなアップデートをしている。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

実習科目の授業評価アンケートは非常に高い結果となった。特に、新しく取り入れたロールプレイング方式や、対面式の実習時の教員の声かけやディスカッションは、学生からの質問がしやすい環境作りと評価された。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

学生の授業評価に特段問題はなかったため、来年度も同様の形で実施する予定である。座学においてはアンケートの回収率を高める方法を検討中である。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

担当科目は、学生が目視で確認しながら学習することが難しい分野である。そのため、教材を充実させ、イメージを膨らませるような教育を提供している。また、これを覚えれば試験の点数が取れる、という問題を作らないようにしている。担当科目は国家試験のCD問題がメインとなるため、知識と経験の関係性を理解させるような実習を行い、その内容を試験とするようにしている。また、学生が間違っただけで覚えやすい点については、方向性を変えて反復的な実習を行うことにより、知識を定着させるように努めた結果、臨床繁殖学分野においての平均点は昨年に比べて改善している。今後は教材や教材となるコンテンツを増やして、より理解度を深めていくよう努める。

## **(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック**

対面実習の後半では、①の取り組み効果が如実に現れ、自信を持って教員とディスカッションをする姿が認められた。学生からのアンケートでは、担当科目への苦手意識が薄れた、わかりやすいといった評価が得られており、学習効果があったと認識している。

## **7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)**

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学内FD研究会に可能な限り対面で参加した。難しい場合にはオンデマンド資料を視聴した。

## **8. 今後の目標**

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

「自ら疑問を感じて、それを解決するために積極的に行動できる人間」の育成のために、まずは双方向授業への工夫を行う。学生からの授業評価や抱えている課題を正確に受信し、対応できるようにする。

## **9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料**

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、配布資料、FDプログラムの参加記録、Google formsによる授業アンケート結果